

チャータード銀行ニューヨーク支店の活動（1902年—1930年）

札幌学院大学

北林雅志

英系国際銀行に関する研究は、これまで主に 19 世紀後半から第 1 次世界大戦までを対象時期とし、国際金本位制の成立過程から確立期に焦点を当て、英系国際銀行が主たる活動領域としてきたカナダやオーストラリアといったイギリス植民地やアジア地域における活動、またそれとならんでただ一つの国際金融市場であったロンドンにおける活動について詳細な研究がなされてきた。

今回の報告の課題は、これら先行研究の成果を踏まえて、これまであまり取り上げられてこなかった第 1 次世界大戦期から両大戦間期に視野を広げ、この時代に固有の問題である、ニューヨーク金融市場が国際金融市場として機能し始めることによる国際金融市場の分裂という時代背景の下での英系国際銀行の活動を究明することである。その第一歩としてニューヨークにおける支店活動の実態を明らかにしたい。

本報告では上記の問題意識を念頭に、英系国際銀行のニューヨークにおける活動内容を知る上で欠かすことのできない行内計算書類が、比較的まとまった形で残されているチャータード銀行に焦点を当て、そのニューヨークにおける活動内容を明らかにしたい。

まずチャータード銀行ニューヨーク支店の活動を、その資産総額の動きによって 3 つの時期に区分する。第 1 期は開業から第 1 次世界大戦が始まる 1914 年までの時期で、途中 1907 年恐慌による落ち込みを経験しながらも 500 万ドル規模の水準で推移している。第 2 期は 1915 年から 1919 年までの主として第 1 次世界大戦中に当たる時期である、それまでの 500 万ドルの規模から 1500 万ドルへと急速な拡大を示す時期である。第 3 期は両大戦間期のうち 1920 年から 30 年までの時期で、1500 万ドルから 2000 万ドルの規模で推移した後 1930 年に大きな落ち込みを見せている。

それぞれの時期における活動内容を支店バランスシートの分析を通じて特徴づけを行う。最も大きな分岐点となるのは、アメリカ連邦準備制度の成立に伴い開設されたニューヨーク・アクセプタンス・マーケットの出現である。これを契機としてニューヨーク支店の活動は飛躍的に増大する。また行内計算書類の分析を通して、利付手形の記帳処理について明らかにする。これによってアメリカの輸出貿易における幣種（ポンドからドル）の動向を確認することができた。またニューヨーク支店の利付手形の取り扱いについて明確にすることにより、この時期のチャータード銀行本店における利付手形の取り扱いについても、ある程度類推することが可能となった。

今回の報告は、とりあえず 1 銀行の支店分析にすぎないが、今後の他の英系国際銀行や他国の銀行との比較研究を行うことによって、第 1 次世界大戦期また両大戦間期におけるニューヨーク金融市場の国際金融市場化への動きをより包括的に取り扱うことができると思われる。